

GIP-TRIAD

Newsletter

Mar. 2017

Vol.

1

CONTENTS

1 はじめに

2 活動紹介

- …… 筑波大学 永田 学長がボルドー大学を訪問
- …… 学生ワークショップ「Transdisciplinary Studies in the Making: Tsukuba-Bordeaux Student Workshop on Humanities and Social Sciences」を開催
- …… ボルドー大学 Laure Béven 教授が筑波大学を訪問・GFS-DDP 第1期生を輩出
- …… GFS-DDP モンサント奨学生の留学報告会
- …… ボルドー大学 Dominique Rolin 教授が筑波大学を訪問～UB-UT学生交流担当教員との面談～
- …… ～集中講義～
- …… ～熊谷ラボ、GIP-TRIAD 関連施設視察～
- …… ～学生派遣に関する意見交換～
- …… NTU-UT International Study Group
- …… 国立台湾大学生物資源・農学院と筑波大学生命環境科学研究科の博士課程ダブルディグリープログラムの協定書調印式とキックオフ・ミニシンポジウムの開催
- …… 筑波大学 伊藤真 副学長(教育担当)の国立台湾大学訪問
- …… 筑波大学台湾校友会総会・懇親会、筑波大学入試説明会
- …… 台湾滞在中の筑波大学学生との交流会

3 海外留学関連情報

- …… 「イノベーション・インターンシップ100」
- …… 日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度

4 編集後記



1 / はじめに

これまで協定校との交流においては学生の相互派遣が主な交流となっておりましたが、近年では、教職員の交流も活発になっております。協定校との継続的な連携強化により大学全体が活性化することを期待します。2017年第1号となる本号では、ボルドー大学の GIP-TRIAD プログラムリーダーを務める Dominique Rolin 教授の本学訪問、国立台湾大学およびボルドー大学との学生交流、ダブルディグリープログラム (DDP)、学内イベント等の活動状況などを中心に紹介します。

2 / 活動紹介

… 筑波大学 永田 学長がボルドー大学を訪問

2017年1月31日-2月1日の両日に渡り、本学の永田恭介 学長、Caroline Benton 国際担当 副学長、大根田修 国際室長、福重瑞穂 国際室職員がボルドーを訪問しました。1月31日は、ボルドー大学を訪問し、Manuel Tunon de Lara 学長、Vincent Dousset 国際担当 副学長、Hélène Jacquet 研究・国際戦略室 次長、Glenda Gilmore 国際交流マネージャーと懇談し、両大学における Campus in Campus (CiC) に係る活動計画やオフィス機能の強化等について話し合いが持たれました。その後、一行は Grave 地区にあるフランス国立農学研究所 (INRA) 所有の Chateau Couhins を視察しました。Ch. Couhins は Grave 地区における格付ワイナリーの一つで、筑波大学ブランドのワインを生産していることでも知られています。同シャトーでは、本学生命環境科学研究科および GIP-TRIAD のボルドー大学側の窓口となっている Dominique Rolin 教授、Michel Hernould 教授、森健太郎 准教授と懇談しました。

翌2月1日は、ボルドー・モンテーニュ大学 Patricia Budo 国際部長と面談し、今後の交流拡大に向けた施策について話し合いました。その後、ボルドー大学 Victoire キャンパスにおいて開催された学生ワークショップ「Transdisciplinary Studies in the Making: Tsukuba- Bordeaux Student Workshop on Humanities and Social Sciences」に出席すると共に、本学の交換留学生ならびに同シンポジウムに参加のためボルドー大学を訪問中の学生と面談しました。今回のワークショップが契機となりボルドー・モンテーニュ大学との交流が質量とも促進されることが期待されます。



© Hugues Bretheau /SAM Univ Bx



© Hugues Bretheau /SAM Univ Bx



左 上：ボルドー大学における学長・副学長懇談

左より Glenda Gilmore ボルドー大学国際交流マネージャー, Caroline Benton 国際担当 副学長, Manuel Tunon de Lara ボルドー大学 学長, 永田恭介 学長, Hélène Jacquet ボルドー大学研究・国際戦略室 次長, Vincent Dousset ボルドー大学国際担当 副学長, 福重瑞穂 国際室職員, 大根田修 国際室長

中央上：ボルドー大学における学長懇談

右 上：Chateau Couhins を視察

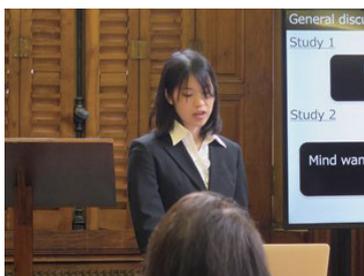
左 下：ボルドーオフィスにおいて本学の交換留学生、学生ワークショップ講演学生らと面談

中央下：ボルドーオフィスにおいてボルドー・モンテーニュ大学 Patricia Budo 国際部長 (中央)と面談

右 下：ボルドー大学 Victoire キャンパス図書館を視察

… 学生ワークショップ「Transdisciplinary Studies in the Making: Tsukuba-Bordeaux Student Workshop on Humanities and Social Sciences」を開催

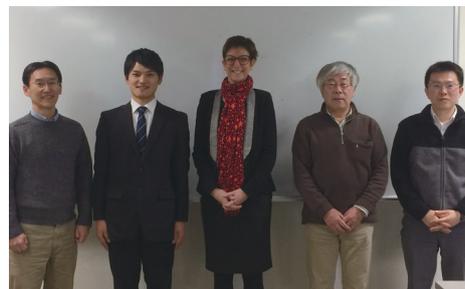
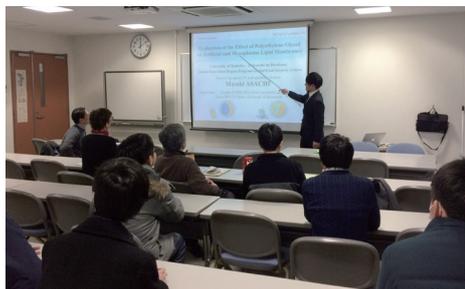
2017年2月1日、ボルドー大学 Victoire キャンパスにおいて学生ワークショップ「Transdisciplinary Studies in the Making: Tsukuba-Bordeaux Student Workshop on Humanities and Social Sciences」(筑波大学人文社会科学研究科、ボルドー・モンテーニュ大学、ボルドー大学、ボルドー政治学院 共催)を開催しました。冒頭、ボルドー訪問中の本学の永田恭介 学長が開会の挨拶を行い、次いでボルドー・モンテーニュ大学国際部長 Patricia Budo 教授による基調講演が行われました。また、同シンポジウムには、CiC 等支援プログラム“ボルドー大学との人文社会科学における教育研究交流”の支援を受けた人文社会科学研究科の大学院生5名が参加し講演を行いました。本学とボルドーの学術・人的交流はこれまで生命環境科学分野、医学・医療分野、スポーツ科学分野が中心でしたが、今後、ボルドー・モンテーニュ大学を交えた人文社会科学分野への交流拡大が期待されます。



左上：学生ワークショップにおいて開会の挨拶を行う永田恭介 学長
 右上：ボルドー・モンテーニュ大学 Patricia Budo 教授による基調講演
 左下：本学学生による研究発表
 右下：シンポジウム後、本学学生参加者一同で

… ボルドー大学 Laure Béven 教授が筑波大学を訪問・GFS-DDP 第1期生を輩出

2017年1月27日-2月1日にボルドー大学の Laure Béven 教授が GFS-DDP 第1期生の修士論文審査および研究セミナーを実施するため来学しました。Laure Béven 教授には、ボルドーにおいて GFS-DDP 第1期生の指導教員として学生のご指導をいただきました。1月27日に浅地真木氏の修士論文審査・口述試験が行われ、Laure Béven 教授は審査員の1人として出席しました。続いて、1月30日に、[Mollicutes: Small, simple but efficient



左上：GFS-DDP 第1期生 浅地真木 氏の修士論文最終審査
 右上：修士論文審査後の集合写真 [左から市川創作 教授、浅地真木 氏、Laure Béven 教授、佐藤誠吾 教授、小川和義 助教
 左下：研究セミナー後の集合写真
 右下：懇親会後の集合写真

micro-organisms-Membrane structure and functions] と題して、研究セミナーが開催され、多くの教員・学生が参加しました。その晩に、Laure Béven 教授の本学の教育・研究プログラムへの貢献に感謝の意を表して本学の DDP 関係の教員・ボルドー大学 DDP 学生を交えて懇親会が行われました。浅地真木氏は、ボルドー大学および筑波大学の審査を通過し、無事双方の学位を取得して3月末に博士前期課程を修了します。今後、本プログラムを通して本学とボルドー大学の交流がさらに活性化することが期待されます。

… GFS-DDP モンサント奨学生の留学報告会

2017年2月23日、日本モンサント株式会社・本社におきまして「日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度」の第1期奨学生の留学報告会が行われました。日本モンサント株式会社からは、代表取締役社長 山根精一郎 氏、広報部・部長 佐々木幸枝 氏、広報部 榊原優 氏、本学からは浅地真木 氏 (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻グローバルフードセキュリティーコース・ダブルディグリープログラム [GFS-DDP] 第1期生)、岡部 佳弘 助教 (生命環境系) が出席しました。浅地 氏より現地における日常生活、文化、新たな発見、研究成果、本プログラムを通して得られた経験、将来の展望等について報告が行われました。

報告会は和やかな雰囲気で行われ、一同1年前の面接時と比べ、大きく成長を遂げ帰国した浅地氏に大変満足しておりました。最後に今後のさらなる発展に向けて山根 氏より激励のお言葉をいただきました。浅地 氏につづき、現在ボルドー、台湾において研究活動に励んでいる第2期生についても一回り成長した姿を見せてくれることを期待します。

GFS-DDP をご支援いただきました日本モンサント株式会社 代表取締役社長 山根精一郎 氏にこの場を借りて御礼申し上げます。



上：留学報告会の様子
下：報告後の記念撮影 (左から代表取締役社長 山根精一郎 氏、GFS-DDP 第1期生 浅地真木 氏、岡部佳弘 助教 (生命環境系))

… ボルドー大学 Dominique Rolin 教授が筑波大学を訪問 ～ UB-UT学生交流担当教員との面談～

2017年3月1日、本学生物資源学類において国際農業研修IIIとして実施しているボルドー大学との連携交流プログラムを担当している野村名可男 准教授と2017年のボルドーサマースクールの実施概要について打合せを行いました。ボルドーサマースクールは、生物資源学類生に大変人気の高い短期留学プログラムとなっており、例年参加した学生の中からボルドー大学への留学を希望する学生が数名います。4月中旬のオリエンテーションにおいて参加希望者の募集を行い、Skype 面接によりサマースクール参加者10名程度を選抜します。2017年のサマースクールは、7月15日から7月30日に開催予定となっています。詳細は、ボルドーサマースクールのウェブサイトをご覧ください (<http://bss-frenchagri.u-bordeaux.fr/en>)

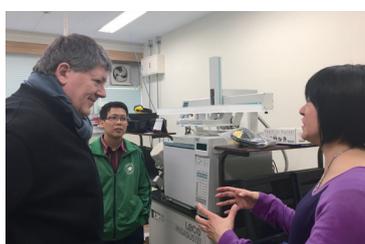
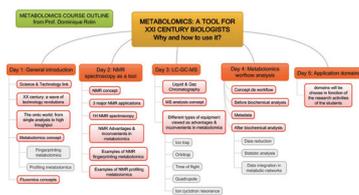


左：打ち合わせの様子 (左から岡部佳弘 助教、Dominique Rolin 教授、野村名可男 准教授)
右：2017年ボルドーサマースクールの案内

… ボルドー大学 Dominique Rolin 教授が筑波大学を訪問～集中講義～

2017年2月27日 -3月3日の1週間、ボルドー大学 Dominique Rolin 教授がメタボロミクスに関する大学院生対象の集中講義を実施するため本学に滞在しました。本講義: Metabolomics: an emerging but powerful tool to study biology は、5日間の集中講義として実施され、講義内容は生物学・バイオテクノロジーの歴史からメタボロミクス基礎・応用と多岐に渡り非常に身のある講義でした。本講義には博士課程前期・後期の大学院生以外に、ボルドー大学から DDP 学生として本学に在学している修士学生2名、ボルドー大学への留学を考えている学類生、GIP-TRIAD へ参加を希望している学生2名も聴講に来ておりました。また、滞在期間中の3月2日、本学においてメタボロミクス研究を展開している草野都 教授と今後の教育・研究連携の可能性について意見交換を行いました。

Dominique Rolin 教授のユーモアがありサイエンスとしての的を射た講義に参加した学生は皆聞き入っていました。今後も海外協定校の講師による集中講義を積極的に実施することで、協定校との交流が活発となり、その関係がより強固になるものと期待されます。



左上：集中講義概要
 右上：講義の様子
 中央左、中央右：講義をする Dominique Rolin 教授
 左下：メタボロミクスに関する意見交換の様子 (左から Dominique Rolin 教授、Yonathan Asikin 助教、草野都 教授)
 右下：集中講義参加者の集合写真

… ボルドー大学 Dominique Rolin 教授が筑波大学を訪問～熊谷ラボ、GIP-TRIAD 関連施設視察～

2017年3月1日、昼食後に GIP-TRIAD プログラムコーディネーター 熊谷嘉人 教授の研究室ならびに GIP-TRIAD 関連施設の視察を行いました。今回の訪問では、関連施設を視察しながら GIP-TRIAD 学生の滞在期間中の学生指導や支援体制について意見交換をしました。筑波大学、ボルドー大学のプログラム責任者が、プログラム開設までに至る各国における制度の違い、新しいプログラムを開拓する難しさについて互いの意見を共有する良い機会となりました。また意見交換の末、本滞在中に Dominique Rolin 教授が本学学生に講義を実施したことをきっかけとし、2017年中に熊谷嘉人 教授がボルドーを訪問し、特別講義を行うことを予定しています。このような交流の積み重ねが、将来的に GIP-TRIAD 志望者の獲得につながることを期待します。



左上：市内で昼食 (左から熊谷ラボ・スタッフ 広瀬玲子 氏、熊谷嘉人 教授、Dominique Rolin 教授、岡部佳弘 助教)
 右上：熊谷ラボの視察
 左下、右下：共同実験室設備および実験室内共用スペース

… **ボルドー大学 Dominique Rolin 教授が筑波大学を訪問～学生派遣に関する意見交換～**

2017年3月3日、最終日の講義終了後、ボルドーサマースクールの新入生向けオリエンテーションにおける広報、GIP-TRIAD の入試・学生派遣について、阿部淳一ピーター 助教と昼食を交えながら意見交換を行いました。昼食後、ボルドー大学に短期留学希望学生の指導教員 棚瀬京子 准教授と留学の可能性について意見交換を行いました。1週間の過密スケジュールではありましたが、収穫のある交流となりました。



左：昼食を交えた意見交換
(左から阿部淳一ピーター 助教、Dominique Rolin 教授)
右：ボルドー留学希望学生の指導教員との意見交換
(左から Dominique Rolin 教授、棚瀬京子 准教授)

… **NTU-UT International Study Group**

2017年12月2日ー12月4日、国立台湾大学にて、NTU-UT International Study Project がスタートしました。筑波大から20名の学部生、台湾大学から20名の学生が、4人ずつのチームを組んで、英語で様々なトピックを議論します。最後は英語でプレゼンを実施しました。海外留学、そして、海外文化を知る第一歩となる催しです。次回は7月に筑波大学にて国立台湾大学からの学生を迎えて実施します。CiC プロジェクトの一環です。



左：グループディスカッションの様子
右：グループ発表の様子

… **国立台湾大学生物資源・農学院と筑波大学生命環境科学研究科の博士課程ダブルディグリープログラムの協定書調印式とキックオフ・ミニシンポジウムの開催**

2015年秋学期より国立台湾大学生物資源・農学院と本学生命環境科学研究科との間で修士課程ダブルディグリープログラムが開始していますが、その後の重なる協議により、この度、博士課程ダブルディグリープログラムの協定書を締結する運びとなりました。2017年1月9日、沼田 生命環境科学 研究科長をはじめ、大澤 生物圏資源科学専攻長、江面 遺伝子実験センター長、生物圏資源科学専攻教員6名および筑波大学台湾オフィス 大庭 所長が出席し、国立台湾大学において調印式が行われました。調印式後に、今後の共同研究の推進に向けた生物圏資源科学専攻教員と台湾大学教員によるキックオフ・ミニシンポジウムが開催されました。本博士課程ダブルディグリープログラムの開始は、2017年秋学期を予定しています。



協定書調印後集合写真 (左から大澤良 教授、大庭良介 准教授、吉岡洋輔 助教、江面浩 教授、浅野真希 助教、浅野敦之 助教、石賀康博 助教、有泉亨 准教授、沼田治 教授、Director MJ Chen、阿部淳一ピーター 助教、Chairman YS Chang、Dean YT Shyu、Prof. YY Do、Chairman HM Lai、Prof. ZS Chen、Associate Dean SM Chen、Chairman WC Shen、Dr. SI Lin、Dr. FC Chang、Dr. NC Lin、Associate Dean DY Lee、Dr. CL Chung)

… 筑波大学 伊藤眞 副学長 (教育担当) の国立台湾大学訪問

2017年1月20日、本学の伊藤 副学長 (教育担当)と佐藤 副理事 (国際担当) が台湾大学を訪問されました。台湾大学の Tei-Wei Kuo 副学長 (研究教育担当) と会談され、GIP を含む筑波大学と台湾大学との今後の共同活動について意見交換しました。NTU 側からは、Chang-Chuan Chan 教授 (公衆衛生学院)、Ming-Ju Chen 教授 (農学院)、Han-Yi E. Chou 准教授 (医学院・歯学院)、Andrew Tsung (国際室) など GIP-TRIAD メンバーが多数参加しました。



集合写真

左から Chia-Yao Lin 氏 (本学台湾オフィススタッフ)、大庭良介 准教授、佐藤 副理事 (国際担当)、伊藤眞 副学長 (教育担当)、Tei-Wei Kuo 副学長 (研究教育担当)、Chang-Chuan Chan 教授 (公衆衛生学院)、Ming-Ju Chen 教授 (農学院)、Han-Yi E. Chou 准教授 (医学院・歯学院)、Andrew Tsung 氏 (国際室)

… 筑波大学台湾校友会総会・懇親会、筑波大学入試説明会

2017年1月21日、筑波大学台湾校友会の総会と懇親会、校友向け筑波大学入試説明会が開催しました。林 会長指導のもと、台湾校友会会報誌創刊号などが作成され、校友の皆様には校友会活動の報告などがありました。筑波大学からは、伊藤 副学長 (教育担当)、佐藤 副理事 (国際担当)、大庭 准教授、林 台湾オフィス現地スタッフが参加しました。校友会会報誌は、筑波大学台湾オフィスホームページなどでも近日中に公開を予定しています。繁体字と日本語の双方で記されています。筑波大学入試説明会には、OB とそのご子息が多数出席しました。この中から未来の筑波大学生が出てくることを期待します。



左：校友会総会幹事一同、中央：校友会総会一同、右：大庭 准教授による筑波大学校史の紹介

… 台湾滞在中の筑波大学学生との交流会

2017年2月6日、GFS-DDP (ダブルディグリープログラム) 等で台湾に滞在している筑波大学生と交流会を実施しました。留学先での苦労話など、学生達の生の声を聴く良い機会となりました。今後の学生の成長を期待します。



学生との懇談の様子

3 / 海外留学関連情報

「イノベーション・インターンシップ100」

イノベーション・インターンシップ100 の情報が以下のとおり更新されましたので、お知らせいたします。

詳細は以下の URL を参照

(<http://www.ambafrance-jp.org/article9672>)

1. 対象

学生もしくは30歳未満の既卒者で日本国籍を所有している方。候補者は能力や動機に応じて企業により選抜されます。

2. 参加企業

以下の企業がこれまでに求人を掲載！

THALES, MICHELIN, Air Liquide R&D, Sanofi, AXA Group, ORANGE S.A., VALEO LIGHTING SYSTEM, Valeo Systèmes Thermiques, PSA Peugeot Citroën, Fives Intralogistics SA



3. 「イノベーション・インターンシップ100」とは？

インターン生はイノベーションの多岐にわたる側面（科学技術、産業、金融、美食、アート、マーケティング、マネージメントなど）のうちの一つに関連するプロジェクトに携わります。企業の担当者に指導を受けながら、インターン期間に応じて、能力および自主性に合った責任ある業務を託されます。

使用言語、報酬、勤務地、住居は、求人内容によって異なります。

4. 必要ビザ

インターン生は無料交付のワーキングホリデー・ビザでフランスに入国し、研修または職業活動を遂行できます。その他の行政上の手続きは必要ありません。企業側は学生および当該学生が在籍する大学と研修契約を締結するほかは、一切の行政上の手続きはありません。

ワーキングホリデー・ビザ既取得者、または企業・競争・消費・労働・雇用地域圏局（DIRECCTE）が認可した三者間研修契約の枠内で研修するインターン生は、別の種類のビザを求められる可能性があります。

応募時に日本の大学に在籍中の学生は、上記の大学と企業が署名した研修契約書が必要になる場合があります。

5. 報酬など

インターンシップおよび報酬の条件は、企業によって異なります。

※ 独立行政法人日本学生支援機構が民間企業などの協力を得て運営する「トビタテ！留学ジャパン 日本代表プログラム」に応募する際に、フランスでのインターンを自分の留学計画に組み込むことも可能です。

ただし「イノベーション・インターンシップ100」の可否と、日本代表プログラムの可否には関係がありません。また、インターン生が日本の大学に在籍中であること、インターンシップの内容が学修活動の一環として在籍大学により認められること、報酬額が日本代表プログラムからの月額支給額を上回らないことなどが条件となります。詳しくは日本代表プログラムの募集要項を確認してください。

日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度

(1) 申請資格・募集対象

1. 生命環境科学研究科グローバルフードセキュリティーコース（ダブルディグリープログラム）に所属する大学院生（博士前期課程生物資源科学専攻、博士後期課程）
2. 海外留学に高い意欲を有し、学業、人物ともに優れた学生
3. 海外留学にあたり経済的な支援を必要とする学生

但し、はばたけ！筑大生、JASSO、企業、財団等の奨学金に応募したにも拘わらず、留学所要最低経費を確保できない学生を優先するものとする。

(2) 募集人数 2-3名

(3) 支援内容

(1) 支給金額

- ・ 渡航費（渡航時期のエコノミークラス再安値往復運賃相当金額を支給）
- ・ 滞在費の一部（旅費として支給）

(4) 選考方法

(1) 応募期間 5月中旬を予定

(2) 応募方法 各年度の応募期間に、担当者宛に下記の応募書類を提出する。

- ① 申請書（所定様式）
- ② 学業成績証明書
- ③ 研究計画書（所定様式）
- ④ 英語スコア（IELTS、TOEIC、TOEFL、JLPT 等）
- ⑤ 指導教員の推薦書（所定様式）

(3) 審査方法 本学教員および日本モンサント株式会社から選出された役員で構成される審査委員により、書類審査および面接を実施し、奨学生を選考する。

(5) 本支援を受けた学生の義務 修了する前に、日本モンサント株式会社・本社において成果報告を行う必要があります。

(6) 問い合わせ先

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘

E-mail: okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp Tel:029-853-6005

筑波大学 生命環境系 遺伝子実験センター 新館201号室

MONSANTO



筑波大学

University of Tsukuba

4

編集後記

学群あるいは学類レベルでの学生の交換留学、共同研究による交流が定着、協定校とのDDPに参加する学生の相互派遣も活発になってきました。今後さらに修士、博士課程の共同学位プログラムに興味を持つ学生さんが増えることを期待します。引き続き、現地における本学駐在教員、学生、海外オフィスの情報をより一層充実させていく予定です。皆さまにとってより有益なニュースレターにしたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、以下の連絡先へ問い合わせください。

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘

【連絡先】 E-mail: okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp / Tel: 029-853-6005